

私立 ノートルダム清心女子大学

取組名称 “こころをつなぐ学生支援” 社会の要請に応える就職支援を中心に

取組担当者 学務部 キャリアサポートセンター長 岩田 昇

1. 本学の概要

ノートルダム清心女子大学は、ナミュール・ノートルダム修道女会の子女教育の理念に基づく学校法人ノートルダム清心学園によって、1949(昭和24)年、岡山に設立された。当初、学芸学部2学科(英文学専攻、家政学専攻)からスタートした本学は、現在、学部は文学部3学科(英語英文学科、日本語日本文学科、現代社会学科)、人間生活学部3学科(人間生活学科、児童学科、食品栄養学科)をもち、大学院に文学研究科3専攻(日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻、社会文化学専攻)、人間生活学研究科4専攻(人間発達学専攻人間発達学コース・同専攻臨床心理学コース、食品栄養学専攻、人間生活学専攻、人間複合科学専攻)をもつ総合大学となっている。学生数は学部2,350人、大学院31人、計2,381人(2009(平成21)年5月1日現在)である。

本学は、キリスト教精神の上にたつりベラル・アーツ・カレッジとして、地域に開かれた大学であること、時流に流されることなく人々が求めるものにまなごしを向け、人々に奉仕すること、宗教的情操を重んじ、相互の人格の独自性を認め合い尊重することをもってその教育上の理念・目標とし、その歩みを続けている。



写真1 本学ノートルダムホール東棟から中央棟を望む

2. 本取組の概要

本学は、キリスト教精神に基づく全人教育を通じて、十分な学士力を持つとともに、人を思いやり人の

心に寄り添う豊かな感性と人格を持った女子学生の育成に努めてきた。本学の卒業生は、これまでに約22,000名を数える。また、本学は、建学以来教員養成にも力を尽くし、現在、県内の幼稚園及び小中高等学校で、1,500名以上の教員が活躍している。また、県内各教育委員会や公民館、大学教員等の現職者を加えるならば、本学を卒業した県内教育関係者は、現時点で2,500名以上に達している。

社会システムが多様化し複雑化した現在、本学の教育力と、キリスト教精神に基づく人の心を思いやる、豊かな人格と学士力を備えた本学学生の社会での評価は高まっている。

現今の社会・経済情勢の急激な変化の中で、本学学生の活動の場を確保し、社会に、また教育界に一層の貢献を図ることは本学の果たすべき社会的使命である。今回、この取組によって、本学は社会への有為な人材提供というその使命を、より広く実現することを目指す。そのために、学長を中心とした全学体制をとって、学生の就職活動の支援体制を構築する。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 取組の趣旨・目的

本取組の趣旨・目的は、困難な経済情勢の中、本学の教育理念を通じて「人を思いやる心」をもった女性の力を社会に生かすために、就職活動の支援体制を強化することであり、とくに、本学の使命の一つである教員養成の一層の充実のため、教職への就職支援を強めることである。また、支援体制には心理面のケアも含め、「人の心に寄り添うこと」の重要性を示すとともに、学生の人格形成をうながして、本学で培った学士力の実質化を図ることである。

(2) 達成目標

本取組の達成目標は次の3点である。

- ①本学への求人情報等の多様な就職情報を学生にフルタイムで提供する体制を構築する。

- ②大都市圏の教職への就職を可能にする体制を構築する。
- ③学生の心理面のケアを含むよりよい就職支援体制を構築する。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 取組の具体的内容

本取組の具体的内容は、次の①～③を取組の主内容とし、さらに、④以下の4点を加えて全体とする。

- ①就職支援関連事業：卒業生データと就職情報のデータベース化と学生へのフルタイムの情報提供
- ②教職支援関連事業：大都市圏の教職に関する情報の収集と学生への提供、及び当該地域への教職への就職支援
- ③学生相談室との連携事業：本学「学生相談室」と連携した就職相談体制の強化
- ④ホームページ関連事業：取組内容の大学ホームページ上への掲載
- ⑤学生アンケート関連事業：学生アンケートの作成と実施、分析
- ⑥本学主催GPフォーラム関連事業：フォーラムの開催と外部評価
- ⑦先進事例調査関連事業：データベースシステムを運用している大学等での調査

以上の7つの事業の具体的実施内容とその実施体制は次の表1のとおりである。

表1 学生支援GPに関する実施事業・項目

事業名	責任者	実施項目
①就職支援	学務部キャリアサポートセンター長	就職支援情報システムの導入、運用
②教職支援	教職課程主任	大都市圏教員採用説明会への学生参加(神戸市及び堺市にて実施)、教員採用対策講座
③学生相談室との連携	学生相談室担当教員	「キャリアカウンセリングの3ヵ月」の実施(「職業興味検査」や自己分析シートを用いて進路、職業等に関する開発的カウンセリングを行う)

④ホームページ	入試広報部長	本学公式サイト内にGP専用ページを開設し、本取組の内容や進捗状況、成果等を公表する
⑤アンケート実施	学長補佐・学務部長	①～③の実施を踏まえ、学生にアンケートを実施し、その分析等を本学主催フォーラム等で示す
⑥本学主催GPフォーラム	人間生活学研究所長	本学主催フォーラム及び外部評価の実施
⑦先進事例調査	人間生活学研究所長	先進事例のある大学等を訪問調査

(2) 取組の実施体制

以上の具体的内容を実施するために、取組担当者に学務部キャリアサポートセンター長、事務担当者に学務部事務長を置き、事業全体を統括する学生支援GP運営委員会を組織して全学的な実施体制をとる。運営委員会は次のような構成である(表2)。表2にみるように、委員会は学長を委員長とし、必要各部署の責任者に加え、全学的な体制となっている。

表2 学生支援GP運営委員会

委員長	学長
委員	大学院人間生活学研究科長
委員	学長補佐・学務部長
委員	学務部キャリアサポートセンター長
委員	「学生相談室」担当教員
委員	教職課程主任
委員	中等教育主事
委員	初等教育主事
委員	情報機器教育等支援センター長
委員	情報機器教育等支援センター次長
委員	事務部長
委員	財務部長
委員	入試広報部長
委員	学務部事務長
委員	学務部次長
委員	学務部キャリアサポートセンター係長

各委員は、学長を全体の統括責任者とし、他は本取組の具体的内容に関わるチームを形成している。①の就職支援関連事業に関わるチームは、学務部キャリアサポートセンター長をチーム責任者とし、同係長、情報機器教育等支援センター長、同次長、学務部事務長、同次長等が関わる。②教職支援関連事業に関わるチー

ムは、教職課程主任をチーム責任者として、中等教育主事、初等教育主事、学務部事務長等が関わる。③学生相談室との連携事業は、学生相談室担当教員を責任者とする。④ホームページ関連事業は入試広報部長を責任者とする。⑤学生アンケート関連事業は学長補佐・学務部長をチーム責任者とし、学務部キャリアサポートセンター長、教職課程主任、学生相談室担当教員等が関わる。⑥本学主催GPフォーラム関連事業は人間生活学研究科長をチーム責任者として、学長補佐・学務部長、学務部事務長等が関わる。⑦先進事例調査関連事業は、人間生活学研究科長をチーム責任者として、関連委員が関わる構成をとっている。事務部長及び財務部長は各事業の運営・進行に関わる諸手続きを執行する。

(3) 実施・進行中の事業

本取組に関する以上の具体的事業のうち、現在までに実施ないし進行中の事業については以下のとおりである。

(i) 就職支援関連事業

本事業では、就職支援情報システムの導入が進みつつあり、年度末までには導入と試験運用を経て、本格稼働を開始することができる見込みである。また、就職支援事業に関連して、非常勤事務職員及びキャリアカウンセラー資格をもつ非常勤職員を採用し、すでに支援事業とその補佐に活動している。

(ii) 教職支援関連事業

本事業では、2009(平成21)年11月28日(土)に、神戸市教育委員会および堺市教育委員会の主催する教員採用現地説明会に学生を参加させた。本学でバスを仕立て、初等教育及び中等教育の担当教員が付き添い、説明会に臨んだ。参加学生は、教職志望の学生22名であった。

当日は朝7時30分に集合してバスで出発した。まず神戸市に向かい、午後は堺市で説明会に参加した。説明会では、両市とも、2名～7名ほどの教育委員会採用担当者に丁寧に説明に当たっていただいた。両市はともに教育に力を入れており、豊かな人間性と教職への情熱を持つ教師を、広範囲から採用したいとのことである。採用試験に合格するためのテクニックではなく、学生一人ひとりの「ゆめ」や「よさ」を大切に、積極的に人と関わろうとする力が必要であること等の具体的な示唆があり、本学学生にとって有益な指摘を数多くいただいたことに感謝したい(説明会の模様は、写真2に示すとおりである)。

また、本事業では2009(平成21)年12月26日(土)に

「教員採用対策講座」を実施した。当日は、大阪教育大学附属池田小学校の佐藤学先生の講演の後、学校種・教科別に本学の卒業生(現職教員)との相談会を行った。



写真2 神戸市教育委員会による説明を熱心に拝聴する本学学生

(iii) 学生相談室との連携事業

本事業では、2009(平成21)年10月からポスターを掲示して、1・2年生を対象に学生を募集し、11月から毎週木曜ごとにキャリア・カウンセリングを開始した。カウンセリングは、学生相談室担当教員と非常勤の担当者の2名体制で行っている。その具体的内容は「職業興味検査」や自己分析シートを用い、学生が将来の進路や職業選択に向けて意識を高め、自分自身をふりかえって自分の適性を知り、将来の展望を考える機会となるよう努めるものである。1人またはグループで参加し、各2回で完結する。

現在、27組の募集に48組の応募があり、超過分は別にキャリア・カウンセリングを行うこととしている。

なお、3・4年生に向けてのキャリア・カウンセリングはこの事業とは別に機会を設けている。

(iv) ホームページ関連事業

本事業では、2009(平成21)年10月に、本学公式ホームページ内に本取組の専用ページが開設された(図1)。



図1 ホームページ表紙の掲載

(v) 学生アンケート関連事業

本事業では、2009(平成21)年11月から12月にアンケートを作成・配付し、アンケート調査を開始した。アンケートは「キャリア支援に対するアンケート調査

「No.1～No.3」からなっている。

(vi) 本学主催GPフォーラム関連事業

本事業では、2010(平成22)年3月6日(土)の開催が決定した。フォーラムの企画概要は次のとおりである(表3)。

表3 学生支援GPに関するフォーラム等の概要

<p>2009年度 ノートルダム清心女子大学：学生支援に関するフォーラム</p> <p>テーマ「ここをつなぐ学生支援」～社会の要請に応える就職支援～</p> <p>日時 2010年3月6日(土)午後</p> <p>会場 640ND (ノートルダムホール中央棟4階)</p> <p>参加予定 どなたでもご参加いただけます</p> <p>主催 学生支援GP運営委員会</p> <p>○特別講演 「キャリア選択における大学の役割」 岡山大学キャリア支援室 坂入信也准教授</p> <p>○活動報告</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ノートルダム清心女子大学における新たな就職支援」 2. 「教職就職支援」 3. 「学生相談室と連携した就職支援」 	
---	--

なお、このフォーラムと同時に本取組に関する外部評価委員会を開催し、評価を受けることになっている。これに関連して、外部評価委員の人選も進んでいることを記しておきたい。

(vii) 先進事例調査関連事業

本事業については、就職支援システムをすでに導入している各大学を含め先進的な取組をしている事例調査をこれまでに3例行った(写真3)。比治山大学(9月)、追手門学院大学、武庫川女子大学(11月)の3校である。



写真3 比治山大学を訪問しての調査風景

有識者や卒業生等を加え、外部評価委員会を組織し、本取組の外部評価を行う。また、就職支援に関するアンケート調査を実施し、学生の満足度、達成度を測定し、その向上を図る。

外部評価委員会の構成は次のとおりである。

委員 他大学関係者2名

(岡山大学キャリア支援室准教授)

(南山大学キャリアサポート委員会委員長)

委員 卒業生 2名

(岡山市総合教育センター所長)

(株式会社天満屋販売促進チーム広報担当課長)

また、外部評価委員会は第一回目の会合を、本学学生支援GPフォーラムの開催に併せて行うこととなっている。委員会の企画は次のとおりである(表4)。

表4 外部評価委員会の概要

<p>外部評価委員会</p> <p>日時 2010年3月6日(土)フォーラム終了後</p> <p>会場 第二会議室(ノートルダムホール中央棟10階)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 外部評価委員長選出 2) 本学概況説明 3) 質疑応答 4) 外部評価委員講評 5) 閉会 	
--	--

6. 本取組の実施計画等

初年度は、必要なシステム構築と運営体制等の整備を、事業展開と併せて実施するとともに、必要な事務職員を確保する。これらの点に関しては、「4. 本取組の具体的内容・実施体制」の項で、現在実施・進行中の事業の具体的内容について記している。

2年目は、アンケート調査結果、及び外部評価委員会の評価を踏まえて、より改善されたシステム等を構築することとする。

最終年では、継続的实施のためのシステム構築と最終総括評価を行う。

本学では、本取組を、支援期間後も継続する予定である。3年間で学生支援のノウハウを蓄積し、4年目以降は効率的に支援を行うとともに、大学の業務としてそれを定着させ継続的に学生支援を実施することを意図している。

5. 本取組の評価体制・評価方法

本学学生支援GP運営委員会は、本取組に関する活動報告書を作成して本取組の評価を行う。更に、外部